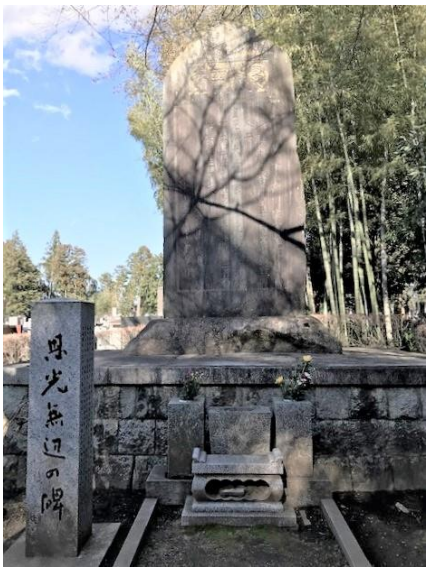
知恩　第27号

目　次

1　新型コロナウイルス感染症に対する対応について	1ページ
2　定時総会開催	2　〃
3　定時総会資料	7　〃
4　お知らせ・編集後記	12　〃

祇園寺の桜と恩光無辺の碑
令和2年3月20日撮影

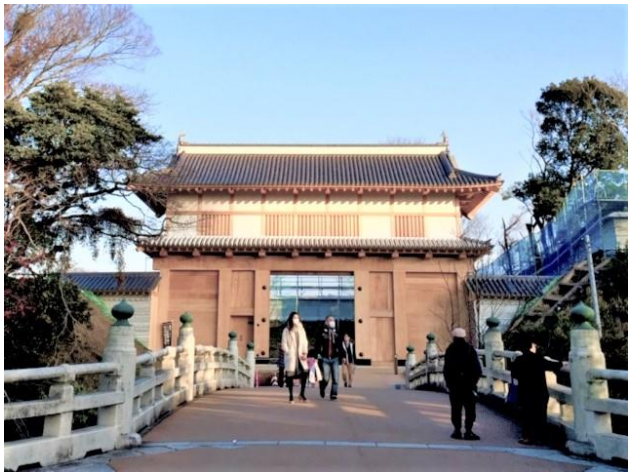


1　新型コロナウイルス感染症に対する対応について

茨城県では、しばらく抑えられていた新型コロナウイルスの感染者が、新たに2人確認される(6月20日現在)など、3密(密閉・密集・密接)を避ける生活は今後も必要といわれております。会員の皆様には、いかがお過ごしでしょうか。

本会では現状に鑑(かんが)み、5月に予定していた研修旅行をはじめ、今年度に予定している事業につきまして、変更や延期などの対応を取らせていただくよう、定時総会でご承認いただいております。

今後の予定などにつきましては、必要に応じ、随時ご連絡いたしますので、ご留意をお願いいたします。



完成した水戸城大手門

２　3月20日（金） 定時総会を開催

3月20日（金）水戸市八幡町の祇園寺において、水戸殉難者恩光碑保存会の令和2年度定時総会を開催しました。「総会資料」は別ページに掲載したとおりです。

大森会長あいさつ

会長になって2年になります。会長になるにあたり、明治維新から150年もたって、なぜこの会を続けるのか考えたときに、水戸市議会で故高橋丈夫議員が、水戸市から「(諸生党も天狗党も）平等に取り扱っていく」という答弁を頂いてからまだ10年しかたっていないこと。それからなによりもこの会をやらなければいけないと思ったのは、千葉県匝瑳市や、新潟県の灰爪に、私どもの関係する史跡を守ってくださっている地元の皆様がいらして、「そういう方々との民間交流をまだ続けなければいけない」、「自分たちが解散してしまったら、そういう方々に申し訳が立たない」。そのような思いから、2年前に会長を引き継ぎました。

その時に直面した大きな課題が、何人もの会員の方から高齢化を理由に「会員を辞(や)めます」というお話がありました。その方がお辞めになったときに、代わりにお子様を紹介していただけるということは少なく、会の先細りが目に見えてきたのです。

それを何とかしなければいけない。それが強い思いであり、そのために私たちは何をやっているのだと、会の存続意義をわかりやすく周囲の人に発信していかなければ、そして協賛してくれる方に協力してもらえるようにしなければ、近い将来自然消滅してしまう。

そのような思いがあって、2年ほど準備にかかりましたが、インターネットのホームページを本日ご紹介させていただくこととなった次第です。皆様のご意見を聞きながら、より良いものにしていきたいと思うので、よろしくお願いします。

来賓あいさつ

本会顧問　元水戸市議会議長　渡辺政明議員

今日本は新型コロナウイルスで消費経済が循環しなくなってしまったということで、大変厳しい環境に立ち入っており、日本の将来もちょっと心配な思いでおります。

今日はお彼岸ということで菩提寺に線香を手向けてきましたが、こちら（祇園寺）にもたくさんの方が参っておられ、まだまだ人情や風情が残っており、何か心強い気がします。

大森会長さんをはじめ岡見事務局長さん、本会にご参加の皆様には、先人のご偉業、ご遺徳に対し、敬愛の念をもって保存継承にご尽力を頂いておりますことに心から敬意と感謝を申しあげたいと思います。

今、会長さんから縷々（るる）お話を頂きました。やはりこういう将来を見て、先細りというお話がありました。私は日新塾精神顕揚会の手伝いをしていますが、やはり同会も一般財団法人化して活動してきましたが、だんだん活動の幅とか内容が細くなっている中で、ここで一つ日本遺産認定に当たっての大きな事業を展開しようとの気運も盛り上がっておりますし、やはり会にいる方たち一人一人の思いが結集するということが大事なのではないかと思っております。

話は変わりますが、今年の2月4日に皆様方のご先祖と大変かかわりのある、水戸城大手門が復元完成しました。素晴らしい、東日本では最大級の大手門であり、壮大で、思っていた以上のものがあったのだということで、文部科学省の方が来て、やはり水戸藩、御三家の一つだと。お城というお城はなかったのだけれども、そういう意味で、「大手門は御三家にふさわしいものを作ったのだな」というような言葉を頂いたところでございます。

おそらく皆様方のご先祖である水戸殉難者の皆様も、あの壮大な門を見上げて、若い、パワーのある志を立てて、そして夢を見て、活動をなされたのかなということを感じたところでございます。

皆様方におかれましては、このような水戸にとって大事な一つの歴史の1ページをきちんと築いてくれた、皆様方のご先祖でございますので、敬愛精神の気持ちをもって、そして未来へつないでいくことが、私は大事なのかなと思っております。

今年の秋には、大手門とつなぐ二の丸の隅櫓、450mにわたる土塁塀も完成いたしまして、来年の春には、おそらくあの周辺の街路も含めて、すべての整備事業、歴史景観的な形成事業が終了いたします。

来年は弘道館と鹿島神社が開館して180年という記念の年を迎えます。そしてまた、水戸藩となじみのある水戸東照宮さんが、家康公を祭って400年という記念の年を迎えるということで、来年の5月の連休には、古の水戸城址復興記念事業を水戸市と地域の団体で、今計画を立てております。

ぜひ皆様方にも、明治維新当時の水戸の城址が復興したというところを見ていただくと同時に、やはり我々水戸の誇りである弘道館はじめあの中心を、観光ではなく、しっかりした歴史の礎を築いた弘道館であるという魅力、個性を発信していきたいと考えておりますので、ぜひ何らかの形で、皆様方のお力もお借りできればというふうに思っております。

結びに、この恩光碑保存会様が、その精神をもって水戸のまちの魅力の一つとして、また個性の一つとして、未来永劫続きますことを、心よりご祈念申し上げまして、ごあいさつといたします。本日はお招きいただきまことに有難うございます。

本会顧問　水戸市議会　後藤通子議員

本日、恩光碑保存会の総会にお招きいただきました。まことににおめでとうございます。大森会長をはじめ岡見先生にはいつもお世話になり、ありがとうございます。

今年度を振り前ってみますと、台風の災害があり、今回のコロナウイルスということで、通常、水戸市で普通に行われていた市民運動会ができなかったりですとか、卒業式もできなかったり縮小して開催されたり、4月も入学式もどうなるかというような、いつもとは違う状況でいるなか、やはり日本の歴史というのは昔から続いているものは大事に大事に保存をして、未来の子供たちに残していかなければならないのだなと、つくづく感じております。

コロナウイルスに関しては、昨夜政府から話がありましたとおり、日本はほかの国と比べて医療が崩壊するほどの大きな急激な上昇には至っていない状況なのですね。

ほかの国は医療崩壊が起こるような大きなカーブを描くようにコロナウイルスの感染者がどんどん増えているといったところ、日本は抑えているのですね。これは日本人としての心がちゃんとあるからなのだなと、私は思っているところです。

これからも恩光碑保存会が続いていけますよう心からご祈念申し上げまして簡単ではございますが私からのご挨拶とさせていただきます。本日はお招きいただきまして、まことにありがとうございます。

次に、田所嘉徳衆議院議員秘書の鈴木様並びに岡田広参議院議員秘書の郡司様をご紹介し、祝電及びメッセージをご披露しました。

議事

続いて議事に入り、まず

2019年度（令和元年度）会計及び行事について、会計担当から報告が行われました。決算報告については監事から、帳票・決算書とも適正である旨報告がなされました。

審議の結果、会計及び行事とも、異議なく承認されました。

次に2020年度(令和2年度)会計及び行事計画について提案されました。収入の内容は前期繰越金、年度会費、慰霊旅行にかかる個人負担金。支出の内容は、総会費、会議費、慰霊旅行費、通信費、灰爪寄付金などとなっています。

審議の結果、2020年度予算及び事業計画は、異議なく承認されました。

討議

次に、今年度の事業に関する具体的な内容等について討議が行われました。

岡見事務局長から、まず、会津・新潟研修視察について説明がありました。

交通手段や宿の予約を押さえる関係上、昨年11月ごろから各方面と調整を進め、5月15日から16日に実施する計画であったこと。

その後、新型コロナウイルスの問題が発生したため、旅行会社から、旅行の延期か中止かを4月20日までに決定するよう連絡があったこと。そのためこの総会での出席者の意見を伺い、後日、役員会で中止、延期または県内の関連史跡の研修視察等への振り替え等を決定したい　との提案がありました。

大森会長からは、「4月20日までにコロナウイルス感染の終結宣言が出るのは極めて難しいのではないか。一方、視察先の地元の方々との交流はなるべく継続的にやっていきたい。今年の慰霊研修を中止とすると、次に会津・新潟を訪問するのが4年後になってしまうことから、例年順番に行っている研修旅行計画を、「今年分中止」ではなく順延し、今年は近場への研修等を考えてはどうか」との発言がありました。

出席者の皆様からは、「この日程では水戸市のバスは使えない」「市役所の幹部や職員は動けない」「行事は終結宣言が出てからでもよい」「皆が密集することは問題」「中止でなく延期でよい」「近場の研修等も終息の方向を見てから秋口以降で検討すればよい」などの意見が出されました。

結論として、

1　様子を見つつ終息宣言が出て落ち着いてから秋口近くに何らかの行事を計画する。

2　今年度業者と計画中の事業は来年度にスライドする　ということになりました。

ホームページの開設について

次にホームページの開設について、会長及びHP管理者から説明がありました。
ホームページは、YahooやGoogleなどの検索サイトで「恩光碑」と入力すれば見られる状況になっています。
開設の趣旨は、会の先細り傾向を打破するために、会の意義をわかりやすく次の世代に紹介すること。そのためにはこういう情報発信源が必要です。
内容としては、トップページから階層ごとに、恩光碑保存会の紹介、会長挨拶、恩光碑とは何か、保存会の活動、諸生党について、リンク　などを紹介しています。
掲載内容についてはさらなる充実を図り、物事を極力客観的に伝えることに努めていきます。
このような形でホームページを運営していく旨、了承されました。
会員の皆様からもホームページの充実のため、ご意見や資料があればお寄せください。

次に、会則の一部修正について会長及び会計担当から3件の承認依頼がありました。
内容は

① 会則第11条本会事務局及び会計担当の所在地を前会長宅から現況に合わせ現在地に修正する。
② 第10条に規定する本会の会計について、これまで本会計・特別会計・郵便会計の3本であったものを、事務効率化及び明確化の観点から、水戸殉難者恩光碑保存会会計として1本化する。
③ 付則第1号の会費の支払い方法について、これまで郵便局での会費支払い手数料は、保存会負担だったものを、今後は手数料を振込者負担としたい。会費収入が年々少なくなっていく状況において、少しでも会の費用負担を減らしたい。

以上は、新会長交代以後の現状に合わせた会則の整理として全会一致で承認されました。

以上で総会の日程は終了し散会となりました。

定時総会次第

令和２年　月　日

水戸殉難者恩光碑保存会総会要項

1　会長挨拶

2　来賓挨拶

3　令和元年度会計報告・行事報告

4　会計監査報告

5　令和２年度会計計画・行事計画

6　討議

①　会津・新潟研修視察について

②　ホームページについて

③　会則修正・確認について

④　その他

コロナウイルスについて、延期・中止か。４月20日まで

定時総会資料

2019年度決算報告 及び 監査報告

2019年度　　収支決算報告　　2019/1/1～2019/12/31　　単位・円

収入の部				支出の部			
科目	金額	内訳	摘要	科目	金額	内訳	摘要
前期繰越	161,598			慰霊旅行費	63,225		
年度会費	230,450			会議費	18,067		
寄付金	93,000			雑費	40,608		
灰爪寄付金	234,000			事務費	2,093		
雑収入	99,215			渉外費	16,972		
法要会費	155,000			資料費	8,652		
その他	405			通信費	92,244		
				灰爪寄付金	60,000		
				振込料	13,040		
				法要費	261,916	祇園寺法要・灰爪開眼法要	
合計	973,668			合計	576,817		

2019年度	収入		支出		次年度繰越金
	¥973,668	－	¥576,817	＝	¥396,851

2019年度　収支決算を上記のとおり報告致します
2019.12.31　水戸殉難者恩光碑保存会
会長　大森信明　印
事務会計　門井孝廣　印

監査報告
監査の結果、帳票・決算書とも適正であることを認めます
2020 年 3月 20日
水戸殉難者恩光碑保存会
監事　宇留野 光　印
監事　松葉尚志　印

2020年度予算~~(案)~~

2020年度　　収支予算　　2020/1/1～2020/12/31　　単位・円

収入の部				支出の部			
科目	金額	内訳	摘要	科目	金額	内訳	摘要
前期繰越	396,851			総会費	10,000	総会会場費用	
年度会費	192,000			慰霊旅行費	800,000		
慰霊旅行費	800,000			会議費	20,000		
				雑費	40,608		
				事務費	3,000		
				渉外費	18,000		
				資料費	9,000		
				通信費	95,000		
				灰爪寄付金	60,000		
				予備費	333,243		
合計	1,388,851			合計	1,388,851		

水戸殉難者恩光碑保存会
会則

（名称）　第1条　本会は、水戸殉難者恩光碑保存会　と称する。
又　水戸藩国事殉難者慰霊の会　を別名とする。

（目的）　第2条　本会は、幕末維新の時、水戸藩諸生派等に所属し国事に奔走して殉難した人々を慰霊し、供養する。

（行事）　第3条　第2条の目的を達成するため、次のとおり、慰霊法要を行う。
1　行事　水戸藩国事殉難者慰霊法要
場所　祇園寺　茨城県水戸市八幡町11-69
期日　原則として，隔年の9月
2　その他　茨城県内・外の現地慰霊行事　（隔年）

（参列者）　第4条　慰霊法要は、全会員に通知して行う。
又、　來賓として、特別参列者を招待する。
特別参列者は、事務局会で決める。

（会員）　第5条　本会は、
1　水戸藩諸生派の後継子孫、親族、縁者及び本会の趣旨賛同者を会員とする。
2　会員は年会費を納入する。

（役員）　第6条　本会を、運営するために、次の役員を置く。
(1)会長　1名　(2)副会長　5名以内
(3)事務局長1名　(4)総務　若干名
(5)会計　1名（通帳代表者）　(6)監事　2名

（役員）　第7条　会長は、総会で選出する。
副会長、事務局長、総務、会計、監事は、会長の指名により就任する。
但し、会長に事故ある時は副会長が代行する。
副会長は、会長を補佐する。
任期はいずれも1年とするが、再任は妨げない。

（顧問）　第8条　本会に、顧問を置くことができ、会長が委嘱する。

（会議）　第9条　本会を、運営するため会議を開催する。
1　総会は　全員に通知して、年1回、定時に開催する。
但し、必要に応じて開催することができる。
2　役員会は　全役員が参加し、総会、法要実施案等を協議する。
3　事務局会は　副会長、役員が参加し、重要事項を協議する。

（会計）　第10条　本会を、運営するために、会計基準を次のとおり定める。
1　収入の部
①　全会員・年会費　¥2，000円とする
②　その他　寄付金等
2　支出の部　必要経費を支出する
3　会計帳簿　水戸殉難者恩光碑保存会 会計
4　会計年度　は1月1日に始まり12月31日に終わる。
5　会計処理　は会計が担当する。

（本会所在地）　第11条　本会は、所在地を　次の所に置く
事務局
岡見円礼方
水戸殉難者恩光碑保存会　事務局

会計
門井孝廣方
水戸殉難者恩光碑保存会　会計

（設立年月日）　第12条　本会の設立年月日は、平成18年10月22日とする。

（その他）　第13条　　1　この会則は、平成18年10月22日から実施する。
　　2　この会則は、2020年4月1日に一部改定する。
　　3　その他細部の必要事項は、事務局会で協議の上決める。、

付則第1号　会費納入について

会則第10条第1項(収入の部)の規定により、会費の納入(お支払い)を戴くことになりました。また、会費の納入を以って入会の手続きとさせていただきます　ので、郵便局に払い込みをお願い致します。

記

1 年会費　会費は、会計年度(1月1日から12月31日まで)の年会費とし、
定時総会後に郵便局の「払込取扱票」をお送りしますので、毎年納入をお願い致します。
定時総会は原則として毎年・3月に行います。
但し、初年度は、平成18年10月22日から平成19年12月31日までとする。
全会員の年会費は　￥2，000円

支払方法
①　郵便局の振替用紙・払込取扱票に住所、氏名をご記入の上最寄の郵便局にお支払い願います。
②　郵便局の払込受領書を領収書とし、本会より領収書は発行致しません。
③　会費以上の金額は、寄付金とさせて頂きますので宜しくお願い致します。

2 法要参加費　慰霊法要参加費については、法要当日受領致します。

※ 入会の手続き方法
①　郵便局指定の(払込取扱票)に所定事項を記入して最寄りの郵便局に払い込む
②　口座記号番号
③　加入者名　水戸殉難者恩光碑保存会
④　金額　記入
⑤　住所・氏名　記入

この規約の記載内容について事実と相違ないことを証明します。

2020年　4月　1日

水戸殉難者恩光碑保存会　会長　大森　信明　印

【参考】役員一覧

顧　問　祇園寺住職　小原宜弘　市村眞一　渡辺政明　後藤通子　中里誠志郎
会　長　大森信明
副会長　市川達也　朝比奈泰将　小山文子　結城敏也　大森信樹
事務局長　岡見円礼
事務局
　総務　弓削徳衛　成田行弘　岡見瑞江　深谷益美(員外)
　会計　朝比奈泰将　門井孝廣
　編集　大森信樹　市川達也　田口寛
　庶務　成田行弘　岡見瑞江　門井孝廣
会計監査　松葉尚志　宇留野光

水戸殉難者恩光碑保存会ホームページ(http://www.onkouhi.site/)開設について

会長　　：大森信明
HP 管理者：大森信宏

1 ホームページ(http://www.onkouhi.site/)開設について

この度、恩光碑保存会のホームページを開設することになりました。ホームページを作ろうと考えた背景は、会員の高齢化による会の先細りを打破する一手とすることです。そのためには、次の世代へ、活動意義をわかりやすく伝える手段が必要と思いました。ホームページにより、恩光碑保存会、諸生党に関する広範な知識・情報が容易に入手可能となります。また、会の活動意義・成果を発信することができます。ホームページが会の発展につながることを切に願い、開設の挨拶といたします。(会長、大森信明)

2 ホームページの構造について

トップページ ―― 恩光碑保存会について　(会長あいさつ、恩光碑について、活動経緯ほか)
諸生党について　(諸生党とは、幕末水戸藩年表、市川勢軌跡、殉難者名簿)
諸生党関連資料　(諸生党関連資料・書籍・人物・サイト)
会報「知恩」　(No1～26 全編 PDF)
水戸藩士殉難 150 年記念事業　(記念講演試聴、記念誌 PDF)
お問い合わせ

ホームページの構造は開設目的に沿い、恩光碑及び恩光碑保存会、諸生党の解説を文脈としています。また、可能な限り先行文献や多様な既設サイトの紹介をしようとしています。

3 ホームページの運営について

記載内容の変更は、原則として役員会の承認で行います。ただし、お知らせの記載、会報の追加等の速報性の要する記事については役員会の承認を不要とする場合もあります。

お問い合せは５人に転送可能（現在は会長、管理者の２人)。事務局と相談の上、会長が回答します。

4 その他

“諸生党関連資料”は拡充中で、関連書籍・史跡・人物は少しずつ拡充する予定です。

会員の皆様からも、ホームページをより充実させるためのご意見、ご指摘をお寄せください。

恩光碑保存会について

<コンテンツ>

- 諸生党について
- 諸生党関連資料
- 会報「知恩」
- 水戸藩士殉難150年記念事業
- お問い合わせ

- ごあいさつ
- 恩光碑保存会設立の経緯
- 恩光無辺の碑とは
- 恩光無辺の碑文
- 恩光碑保存会の概要
- 恩光碑保存会の活動経緯 ～水戸藩諸生派国事殉難者慰霊供養の経過～

諸生党について

<コンテンツ>

- 恩光碑保存会について
- 諸生党関連資料
- 会報「知恩」
- 水戸藩士殉難150年記念事業
- お問い合わせ

PDF資料の閲覧にはAdobeリーダーが必要です。Adobeリーダーをお持ちでない方は、こちらからダウンロードしてください。

- 諸生党(しょせいとう)とは（フリー百科事典「ウィキペディア(Wikipedia)」へリンクします）
- 幕末の水戸藩の軌跡・年表
- 戊辰戦争 諸生党（市川勢）の軌跡
- 諸生党殉難者名簿(PDF)
- 諸生党の詳細は当会記念誌をご一読ください。水戸藩士殉難150年記念誌「埋もれし人々に光を」

諸生党関連資料

<コンテンツ>

- 恩光碑保存会について
- 諸生党について
- 会報「知恩」
- 水戸藩士殉難150年記念事業
- お問い合わせ

PDF資料の閲覧にはAdobeリーダーが必要です。Adobeリーダーをお持ちでない方は、こちらからダウンロードしてください。

- 水戸徳川家と会津、高須松平家との関わり（前津理穂 当会元副会長）(PDF)
- 「水戸の先達」室田義文(PDF)
- 朝比奈知泉（フリー百科事典「ウィキペディア(Wikipedia)」へリンクします）
- 水戸藩士殉難150周年記念事業 会津・新潟研修旅行 資料（2018.5.18）(PDF)
- 諸生党関連書籍
- 諸生党関連史跡
- 諸生党関連人物
- 諸生党関連サイト

「知恩」
ダウンロード

「知恩」は恩光碑保存会が年2回発行している会報です。
このページからはPDF判を自由に閲覧いただけます。
号数をクリックするとページが開きます。

第1号	第2号	第3号	第4号	第5号
第6号	第7号	第8号	第9号	第10号
第11号	第12号	第13号	第14号	第15号
第16号	第17号	第18号	第19号	第20号
第21号	第22号	第23号	第24号	第25号
第26号				

「知恩」の閲覧にはAdobeリーダーが必要です。
Adobeリーダーをお持ちでない方は、こちらからダウンロードしてください。

お問い合わせフォーム

1. 恩光碑保存会に関するご意見、ご要望、ご質問などをお受けしています。
2. 以下のフォームより、必要事項を入力のうえ送信してください。

お名前	
メールアドレス	（再度入力）
問合せ種別	○ご意見 ○ご要望 ○ご質問 ○入会希望 ○その他
問合せ内容	

送信する　リセット

個人情報の取扱いについて

1. ご記入いただいた個人情報は、お問い合わせへの対応および確認のためのみに利用します。
2. また、この目的のためにお問い合わせの記録を残すことがあります。

水戸藩士殉難150年記念事業

記念講演「御三家水戸藩の光と影」
記念誌「埋もれし人々に光を」

ダウンロードページ

明治維新150年の節目に当たり、水戸藩士殉難150年記念事業の一環として平成31年2月に、鈴木暎一先生（茨城大学名誉教授）による記念講演「御三家水戸藩の光と影」を実施し、小一先生（常磐大学特任教授 当会顧問）執筆による記念誌「埋もれし人々に光を」を発行しました。
このページでは、鈴木先生の記念講演の様子を再生してお聞きいただけます。
また、市村先生執筆の記念誌をダウンロードしてご覧いただけます。記念誌がタイトルのように、埋もれし人々に光を与えることを、切に願います。

記念講演「御三家水戸藩の光と影」
（クリックすると再生します 時間 約1時間40分）

記念誌「埋もれし人々に光を」(PDF)
（クリックするとダウンロードできます）

閲覧にはAdobeリーダーが必要です。
Adobeリーダーをお持ちでない方は、こちらからダウンロードしてください

◎ 史跡維持管理のためのご寄付のお願い

新潟県柏崎市灰爪の丘をはじめとする県内外の諸生党関連の史跡は、今日まで地元の方々の献身的な努力により、除草や整地、補修など、慰霊の環境が保たれてきました。

本会といたしましては、史跡管理を行ってくださる地元の方々に対し、感謝の気持ちとともに協力をしていかなければならないと考えます。

つきましては、本年も随時、皆様からのご寄付をお願いしたいと考えております。

誠に恐縮に存じますが、この趣旨をご理解いただき、同封いたしました振込用紙をご利用いただくなどの方法により、ご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

★編集後記

本文中にもありましたように、新型コロナウイルスは、友人との直接の触れ合いや親密な語らいを避けるなど、私たちの「コロナ後の生活」を変える程、大きい影響をもたらしました。

春の事業が延期になる一方で、ホームページが開設されました。会員の構成年齢が高い本会では、このように今後の事業や会議の実施方法など、いろいろと工夫していく必要があると思います。（樹）

知恩第27号
発行日　2020年（令和2年）6月21日
発行所　水戸殉難者恩光碑保存会
発行人　大森信明
作　成　事務局　編集委員会